

平成 19 年度 研究協力委員会 活動報告

平成 19 年度は 3 つの活動目標を掲げて、カルノシン・アンセリン研究会の立ち上げや共同研究などを柱とした活動を推進した。

< 活動目標 >

- (1) 大学シーズと企業ニーズの融合
- (2) 共同研究の推進
- (3) 研究成果の発信

< 活動成果 >

- ・ 第 2 回広島大学日本ハム研究協力委員会の開催
- ・ 第 1 回カルノシン・アンセリン研究会の設立および講演会の開催
- ・ 共同研究「豚心筋タンパク質の骨粗しょう症予防効果の研究」および「鶏コラーゲン加水分解物 (C-COP) の血管保全メカニズムの研究」を推進
- ・ 共同での研究成果の発信

< 活動概要 >

- (1) 大学シーズと企業ニーズの融合

本年度も広島大学および日本ハムの責任者と担当者を交えたグループ討議を通じて、情報を共有化し、大学シーズと企業ニーズの融合化を推進した。

第 2 回：「研究協力委員会」

日時：平成 19 年 12 月 21 日（金）13：30～14：30

会場：広島大学 生物生産学部 ミーティングルーム

発表テーマおよび演者：

平成 19 年度活動内容の報告

平成 19 年度共同研究内容の進捗報告

産学連携センターによる特許内容の紹介など

- (2) 共同研究の推進

共同研究

【研究題目】

豚心筋タンパク質の骨粗しょう症予防効果の研究

【研究担当者】

広島大学大学院生物圏科学研究科：西村敏英

日本ハム(株)中央研究所：江草 愛、高畑能久

共同研究

【研究題目】

鶏コラーゲン加水分解物 (C-COP) の血管保全メカニズムの研究

【研究担当者】

広島大学大学院総合科学研究科：西村敏英

日本ハム(株)中央研究所：清水宗茂、大森 丘、高畑能久

(3) 研究成果の発信

第1回：カルノシン・アンセリン研究会

日時：平成19年5月19日(土) 18:30~20:30

会場：京都国際会館 日本栄養・食料学会2007年度大会 M会場

講演会プログラムおよび演者：

「ニワトリの脳におけるカルノシンの機能について」、友永ら(九州大学大学院 生物資源環境科学府)

「カルノシン・アンセリンを高含有するトリ胸肉抽出物(CBEX)の抗疲労作用について」、佐藤ら(日本ハム(株)中央研究所)

学会発表および投稿論文

「豚心筋タンパク質の投与が骨粗しょう症モデルラットの骨代謝に及ぼす影響」山新ら、日本畜産学会109回大会(茨城) 講演要旨集 pp.64

「鶏心筋タンパク質のカルシウム沈殿抑制効果」児玉ら、日本畜産学会109回大会(茨城) 講演要旨集 pp.65

“Dietary chicken breast extract inhibits high-intensity exercise induced decrease in rat sarcoplasmic reticulum Ca^{2+} binding.”
American Journal of Physiology (投稿中)

(4) その他

平成18年度活動状況を研究科ホームページに掲載した。

平成18年11月1日付け、広島大学・日本ハム(株)「包括的研究協力協定に基づく研究協力委員会」の設置に関する申し合わせに関して両者合意のうえ、広島大学側の世話人を交代した。

以上